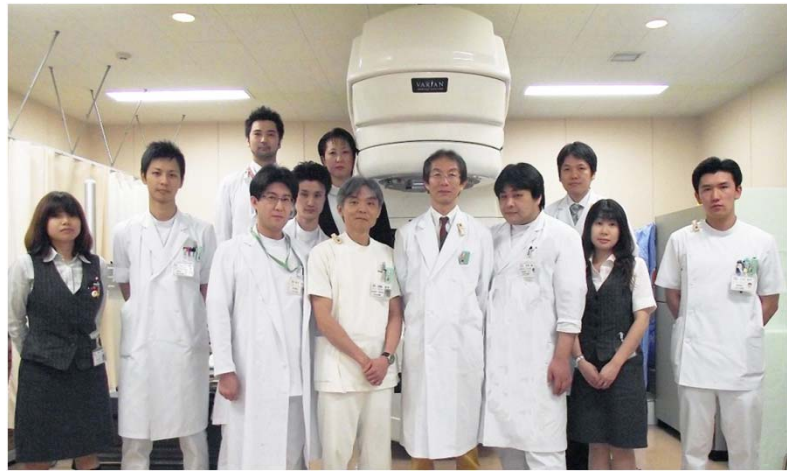


## 第8回 現場にアタック ～後編～

### 放射線治療室について知りたい!



稼働して7年が経過した現在の放射線治療室のフルメンバー  
国民的某海賊漫画のようにだんだんと優秀な仲間が集まりました。(大岡談)

### 医師・物理士・技師・看護師・事務が一枚岩の強力なチームとなって がん治療にあたる全国有数の治療実績を持つ放射線治療室にアタック

平成23年2月より放射線治療装置の増設工事が始まり、今秋の完成を目指し着々と工事は進んでいます。当院の放射線治療室が世界レベルの高い治療実績を持つていることについて職員の方々はご存知だったでしょうか? では、どのような理由で世界レベルなのか、そもそも放射線治療とはなにか、治療装置が増設されることで治療室、そして病院はどう変わるのか、数々の疑問を解消すべく、放射線科、放射線技師 大岡義一さんにお伺いした後編をどうぞ。

放射線治療室の実績について再度教えてください  
大岡 肺がんに対する定位照射は現在の通算で430例を施行しています。これは国内における本治療の約十分の一を当院で施行している計算になります。肝がんに対する定位照射は180例を施行しました。国内の通算症例が約300例といわれているため、これは日本一の症例数を持つていることになりました。武田医師は当院で得られた定位照射の知見を国際的に英文論文として数多く発表しており、当院の治療成績は世界中から注目されています。また今年出版された「がん・放射線療法2010」という書籍では、体幹部定位照射の総論を執筆するなど、定位放射線治療の第一人者として国内外から広く認められています。こうした当院の実績は国内学会においても周知されている為、全国の大学病院やがんセンターから定位照射の患者さんが多く紹介されています。

千里の道も一歩から  
心が届いた本当の贈り物  
昨年11月、本紙4号で「病院を彩る出窓のある風景」と題して、アネックス館から東館へ向かう渡り廊下の出窓を彩る季節の花々や飾り付けについて紹介しました。その際も触れましたが、飾り付けは当院の清掃をお願いしている三菱電機ライフサービス株式会社の方々がボランティアでしてくださっているものです。今年に入ってから、日頃から飾り付けをしているスタッフに思わぬ贈り物がありました。それは、ある患者さんが約1年かけて撮りためた出窓の飾り付けの写真を写した。写真と共に患者さんからのメッセージも添えてあり、そこには当院に長く通われていたこと、そして飾り付けを見るたびに癒されていたことなど、心温まるお言葉が書いてありました。この素敵な贈り物にスタッフ皆で喜んだということでした。「千里の道も一歩から」という当コラムのサブタイトルにもあるように、日頃の小さな行為の積み重ねが大きな実となることを教えてくれた今回の贈り物でした。



それぞれに高い知識と技術レベルが要求されます。そのため我々も、放射線技術や医学物理の学会に多く参加し知識と技術の向上や論文発表に励んでいます。また放射線腫瘍の学会は医師・技師・物理士・看護師すべてが混在して構成される、職種に縛られないとてもオープンな学会です。みんなで積極的に参加することによる、チーム全体の知識と意識の共有も大きいと思います。

先程のお話にあった肝臓がんのピンポイント照射が日本一に至った理由をどう捉えていますか  
大岡 当院のCT-LEINACシステムが、肝臓がんの治療にとっても相性が良いという事が挙げられます。がんをCTで直接認識し、そこを標的に放射線をあてる事が出来るため、他施設のように事前に体内に金属の標識を埋め込むなどの必要がありません。低侵襲・短時間かつ高精度に副作用なく大線量をあてる事が可能です。放射線治療は線量が多ければ、それだけ高い効果が期待できる治療です。これが他施設をリードしている理由のひとつです。

また、肝臓の定位照射が可能な大学病院などであっても例えばラジオ波焼灼療法や外科手術を単独で行って、さらに放射線治療を施そうとすると、最初に行った治療を終えた時点で一度退院してもらい、改めて治療予約を取り転科入院の手続きを取ってもらわなければならないことが困難であったりします。当院の場合は消化器腫瘍センターが中心となり、合同カンファレンスにて集学的な治療方針を立てているので、短期間で一番良いと思われる治療を選択することが出来ます。肝臓がんへの定位照射は非常に新しい治療法ですが、抵抗なく治療選択の一つとして受け入れられた事は非常に大きいです。がん治療は時間が勝負な面もあります。がんがなるべく小さいうちに治療する事は放射線治療でもとても重要です。

高い実績を保ち続ける要因は何でしょうか  
大岡 前回お話ししましたが、放射線治療は医師ひとりで行えるものではありません。日々の治療を施行する技師や物理士に、多くの高精度治療を実施するために治療法の両方を得意とする施設が少ないため、まだそこまで至っていないという状況があります。当院で両治療が稼働すれば国内で唯一の併用療法が可能な病院になります。耳鼻科の常勤医が来るというお話しも聞いていますが、頸部や上顎などの手術による切除ができません。がんは放射線治療が得意とするところでもあります。あらゆる診療科に対し、肝臓がんをやっているような緊密な連携ができれば、患者さんにとって良いことであると思います。

もう一つの理由として、当院の消化器腫瘍病センターが肝臓がん治療の基盤として充実していた事が挙げられます。肝臓がんへの治療のアプローチとして、がんの近くまでカテーテルを持って行って、そこから腫瘍に抗がん剤を流してがんを叩くIVR治療、がんそのものを切り取ってしまいう外科治療、肝臓がんをラジオ波で焼灼する治療などが一般的にありますが、それに加えて定位放射線治療を一般的な治療のひとつとして選択肢に持つ病院は、肝臓への定位照射が他施設にまだ普及していない現在、全国的にみても大船中央病院だけかもしれません。

リニアック増設以外に治療室の展望はありますか  
大岡 これから泌尿器科にて前立腺がんに対するヨウ素125密封小線源永久挿入療法を行っていくのですが、この治療を行うためには、院内全体で取り組んでいかないとまずいと思います。泌尿器科の医師がメインとなって、放射線科医・病棟・看護師・麻酔科医・病理医・放射線技師事務等がうまく連携し初めて安全な治療が成り立ちます。工事終了後より本格化する治療ですが、僕個人としても放射線取扱主任者として安全な放射性物質の運用ができるよう、頑張りたいと思います。

確かに、そういった側面はあると思います。例えばトモセラピーという装置があります。これはIMRT専用機で非常に高精度な装置です。しかし専用機であるため、一般的な治療機より対応できる病気がかなり絞られます。当院の1号機はCTがついていますが基本は一般的なリニアックであり、あらゆる治療に対応が可能な病気を満たさない装置です。なお新規の2号機もリニアックを基礎とした装置であり、1号機とはまた違う方式の画像照合装置と回転IMRTという技術を持つ最新装置です。しかもこの装置は世界で一台しかない、僕達の意見をもとにメーカーに設計していただいた特注機となっています。当院の治療機は米国VARIAN社という世界トップの治療機メーカーの装置ですが、今秋よりメーカー米国内社との共同研究も始まります。これは日本で2例目と大変名譽な事で、当院が世界的に評価されている証左です。

### OASISとは?

理事長室よりお知らせ

OASISは大船中央病院の職員が利用出来るメールリストです。院内での業務に関する大事な情報や楽しいイベント情報が入り手できます。院内では職場の環境や業務内容が違い、お互いのことを知らないと感じることはありませんか?このOASISでは全職員が登録可能で、医療業務に携わる個人の思いやいろんな分野の最新情報などを配信することで職員と職員、また職員と職員とつながるの場所を作っています。

積極的な情報配信はもちろんですが、情報入手するだけの目的としてもぜひご活用下さい。是非、たくさんの皆さんに「OASIS」へご参加頂き、この職場で共に働く方たちとたくさんの思いや情報をシェアし、一緒に向上心や団結力を高めていきませんか?ご自身のPCや携帯アドレスで登録可能です。新規にアドレスが必要な方は先着順に病院のアドレスを提供も出来ます。

登録はOASIS管理人 高田まで  
(内線6311・yu-takada@ofunachuohp.net)

おことわり  
3月11日に発生しました東北地方太平洋沖地震に伴う計画停電等の対応のため、3月25日に発行する予定だった本紙8号の発行を中断させて頂き5月に8号を発行しました。